

第5回宮代町観光ビジョン策定検討会議議事録

■日時：令和2年2月19日（水）15時00分～17時15分

■場所：宮代町役場庁舎2階202会議室

■参加者：＜コーディネーター＞橋本佳恵

＜委員＞嶋田知恵子、中嶋庸子、千葉美香、千葉庄一、浅倉孝郎、小矢島恒雄、山本豊、小川まなみ、岩岸悟

＜事務局＞長堀課長、野口副課長

傍聴人：0名

1 開会

2 会議内容

(1) 宮代町観光ビジョン策定検討会議中間報告（案）について

橋本コーディネーターから当日資料として提出された報告書（案）について説明があった。

山本：観光ビジョンは、町内の活性化と町外からの誘客が必要である。この会議では町外からの誘客、ブラッシュアップするものは何か、について議論すべきである。ユニーク建築の進修館、桜、東武動物公園を観光の柱とし、ユニーク建築と桜と動物のいる町がよい。

千葉庄：参道観光を町として統一したイメージで共有する必要がある。東武動物公園駅から新しい村までを一体化し、歩道にバナー設置、特徴のある道路舗装、エリア全体のマップ作成、相互に割引券発行を事業とする。

橋本：東武動物公園行きバスを東武動物公園・新しい村としたらどうか。そうすれば新しい村がPRできる。

山本：宮代の「み」に合わせて、毎月3日、東武動物公園3割引はどうか。

中嶋：3月8日を宮代の日として入園無料としている。

千葉庄：東武動物公園と新しい村で相互に割引券があることが必要。

浅倉：資源はたくさんあるが、活かしきれていない。これらをつなげるプロモーター、プロデューサーが必要。この役割が観光協会ではないか。すべての人にわくわく感、楽しさが必要であり、これが一番大切である。ニッチ感、オンリーワンを目指す。巨峰の過去の栄光にすがっているのではなく、新しいものを。

千葉庄：組織ができるまで、組織がなくてもやっていくには、新しい村と東武動物公園の連携・相互協力しエリアとして町外からの誘客、外貨獲得を目指す。町民だけでは限界がある。

小川：東武鉄道との連携も大切である。駅に動物がほしい。鉄道～東武動物公園～町が連携、東武動物公園がプロデュースして駅前通りの整備を。

橋本：駅から町が眺められる場所がほしい。

千葉庄：町並みが見えるような場所が駅にほしい。

山本：「姫宮なな」という鉄道むすめのキャラクターがいるが、タイアップしてPRしてはどうか。

浅倉：若い人が店をやれば若い人が集まる、シニアがやればシニアが集まる。若い人が開店できるような仕掛けが必要。

小川：学生は価格が一番。新聞の影響は大きい、プレスリリースはとても大事。発信していくこと。

橋本：発信も個々ではなく組織で発信が大切。

町：観光推進は行政では限界がある。民のキーマン、プロデューサーが必要であり、トータルコーディネートする組織も必要であると考えている。

橋本：宮代町は横のつながりががないので、ネットワークづくりが課題。

岩岸：割引券という話が出ているが、負担はどこがするのか。単なる割引は値崩れを起こすだけで良くない。東武動物公園の年間フリーパスにプラスするとか、スタンプラリーのほうがいい。

宮代町の観光資源を考えたとき、コアコンテンツは東武動物公園である。次に、新しい村、人・イベント、進修館などである。観光協会を設立するとした場合、財源、プロモーション、人材が必要である。財源は、行政補助金、会費、事業主体（物販）、委託業務などが考えられる。DMOなら国・県から補助金と人材育成の支援がある。また、観光庁から観光地域づくりに対する支援メニューもある。プロモーションのPRは、ファブリシティとして彩の国だよりやSNSが考えられる。SNSの場合、何人来たかなどのマーケティングが必要。人材は、現在の資源で大丈夫だと思う。戸田市で小学生に事業プレゼンを実施した例がある。小学生の意見（提言）はとても良い。

観光の3要素として、見る、食べる、買うがある。見るところはたくさんある。食べる場所として、バス1台分に対応できる店がほしい。弁当でもよい。郷土料理、宮代だけの料理がいい。東武動物公園も食べるは弱いのではないか。買うところは新しい村。お土産品の開発が必要。巨峰製品とするのかどうか。

小矢島：人口減少社会の中、交流人口増加は必須。そのために観光は必要。古民家活用も良い。

浅倉：理論武装したビジョンから計画づくりへ。子どもを動かせば大人がついてくる。

千葉庄：観光ガイドマップぶらりの総集編を今年度作成した。宮代町は古民家、屋敷林が財産。

千葉美：新しい村でも観光事業をやっているが、宮代町はあったかい、町民が優しいとの声が多い、人材が宝である。

中嶋：東武動物公園も部署ごとにイベントをやっていて、それぞれ情報発信している。ま

とめて発信していくことが大切である。できることからやっていきたい。

嶋田：町民は外から人が来ることを望んでいるのだろうか。町内事業者は小規模なので、イベントが増えると疲弊してしまう。何のために、だれのためにやるのか、整理が必要。

小川：みやしろおひな祭りに多くのお店から協賛金をいただいている。お店にバックできるように、協賛金をいただいているお店を優先して雛飾りを置いて、ツアーも実施している。多くの方がお店に行ってもらうような仕掛けをしている。信頼関係を築くことが必要である。

橋本：本日の皆さんの意見を取り入れて報告書を修正して、改めて皆さまに確認していただくこととする。

3 その他

今年度の会議は本日で最後である。しかし、もう少し議論を続けたいので、来年度も引き続き会議を開催したいと考えている。来年度になったら改めて連絡をするので、協力してほしい。

4 閉会